委員会視察記録

委員会名	文教警察委員会
期　間	令和５年７月 25 日～26 日
参加者	委 員 長　木内　　満 副委員長　望月香世子　　副委員長　伊藤　和子 委　　員　和田　篤夫　　委　　員　植田　　徹 委　　員　天野多美子　　委　　員　江間　治人 委　　員　小長井由雄　　委　　員　田中　照彦 委　　員　早川　育子
視察先	1　県警察本部（静岡市葵区） 2　県警察本部交通部交通機動隊、警察音楽隊（静岡市清水区） 3　県立清水東高等学校（静岡市清水区） 4　県立伊豆伊東高等学校（伊東市吉田） 5　伊豆中央警察署（伊豆の国市三福） 6　県立富士特別支援学校富士東分校（富士市今泉）

視察の概要

7 月 25 日（火）

■　県警察本部

・広報センター（エスピーひろば）

＜概要＞

平成９年４月に 21 世紀に向けた広報活動として、開かれた明るいイメージで、警察に関する理解促進のために開設され、平成 18 年にはパソコン、大型モニターを導入し、小学生と高齢者を中心に体験してもらうために全面改修した。

その後、機器の老朽化や新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、新たな時代の広報啓発について検討を重ね、大規模なリニューアル工事を行い、昨年８月に施設を一度閉鎖し、本年４月３日にリニューアルオープンした。

分かりやすく、親しみやすく、楽しみながら体験、学習できるとともにオンラインによる学習も可能となり、警察活動への理解や治安維持活動への協力意識の醸成に効果的な警察広報が行えるよう進化している。

・通信指令室

＜概要＞

平成８年に別館 12 階の通信指令室が 110 番センター静岡として県内の 110 番を受理することになった。110 番受理は本年６月現在 115,000 件で、前年比 18,000 件増加。刑法犯認知件数と同様に、コロナ禍を過ぎ行動規制解除に伴い増加していると思われる。１日平均２分 15 秒に

１件受理となる。今年度は全体の 32%が不要不急の案件で多い。無応答案件は現場確認など処理に時間を要するため懸念しており、県民に対して不急は＃9110 の使用などを広報で案内している。

主機器は国費、周辺機器は県費で賄い、県費分は今年３月に更新し、６年のリース契約。今年度大型表示システムに災害関連対策情報と連動して津波浸水区域や避難場所を表示し、また現場の警察官がパトカー内で確認し避難誘導できるようにした。

110 番映像通報システムは、現場の状況を迅速に把握できる。効果があった事例は水難救助や電線切れの関係機関への連絡、迷子の捜査等。110 番アプリは聴覚障害者等が事前登録し、チャット形式でのやり取りとなる。

＜主な質疑応答＞

Ｑ　通信指令システムが災害関連対策情報と連動した経緯は。

Ａ　近年災害が増えているため。

Ｑ　災害関連対策情報と連動した通信指令システムの使用目的は。

Ａ　浸水区域等を地図情報に入れてあり、避難区域と合わせて表示し、現場での避難誘導等に対応していく。

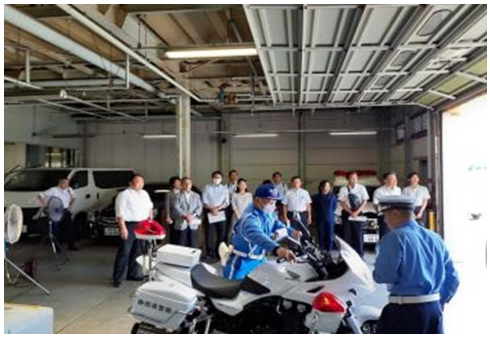
Ｑ　断水など災害時の 110 番通報増加への対応は。

Ａ　通信回線を自動でＬＴＥに切り替えたり、受理台を２倍にするなど受理の増加に対応できるよう強化した。

Ｑ　110 番映像通報システムの課題は。

Ａ　通信料が相手負担であること、著作権を相手に放棄してもらうこと、撮影者の安全確認が必要、撮影機種により対応不可なものがある等。

■　県警察本部交通部交通機動隊・警察音楽隊・交通機動隊



＜概要＞

昭和 52 年に発足。体制は隊長以下 46 名。うち女性隊員６名。男女とも同じ業務。

交通事故抑止に向けた取組は、ＰＤＣＡサイクルに基づいた交通取締りによる計画策定、指導取締りの推進、実施状況の検証による事故多発路線の分析、主要幹線道路、通学路、生活道路における交通事故抑止のための効果的な活動を行っている。また登下校、夕暮れ、夜間における子供や歩行者の事故を防止するための交差点での交通指導取締り活動や、複数の白バイによるレッドパトロール活動を行っている。

交通死亡事故発生時は、土日祝日関係なく発生の翌日から３日間管内に白バイ、パトカーを集中的に導入し死亡事故抑止を図っている。

交通指導取締りは、警察署と連携し合同取締りを行っている。また各種イベントに対応し、大規模災害発生時の派遣で現地調査、被災状況の情報収集や交通対策を実施した。またオリンピック警備や広島サミット警備に従事した。

・警察音楽隊

＜概要＞

警察活動に対する県民の理解と協力を深めるために県民と警察を結ぶ架け橋として音楽を楽しんでいただきながら、防犯や交通安全についての啓発活動を行っている。

体制は楽長以下 21 人。うちカラーガード隊員は３名。その他は演奏で吹奏楽の楽器を担当している。清水分庁舎で演奏訓練等を行っている。

令和４年度演奏回数は 87 回、観客数は約 103,000 人。今年２月有観客で人数制限の上、定期演奏会を開催。

令和５年度５月末現在コロナ禍が明けて 10 回、7 月 22 日現在 40 回開催で前年度を大幅に上回っていく予定。観客数も 11 万人。今後は各種啓発活動に参加し、来年は２月に定期演奏会を開催する予定。令和５年５月より新型コロナウイルスが５類になり感染状況が緩和されたため自主企画演奏再開の第１弾として駿府城公園におけるコンサートを開催した。また派遣も多数の依頼を頂いており、派遣は例年の 190 回程を実施し、県民の安全に寄与できるよう積極的に演奏活動を行って行く。

■　県立清水東高等学校

＜概要＞

大正 13 年４月開校。現校舎は昭和 38 年 10 月 18 日の 40 周年時に建設。昭和 43 年に県内で最初に理数科を設立。

ＳＳＨ（スーパーサイエンスハイスクール）という授業に取り組み現在４期目まで終了。来年度の５期目に向かって新しい理科の実験棟を整備した。１階の自習室ブースは空調を整備しており、19 時まで運用し生徒達は朝７時から勉強に活用。日祝も利用できるよう外郭団体と調整し文武両道をさらに伸ばす準備をしている。

敷地は 36,000 平米でメイン校舎は２棟。北側が古い建物。元々のメイン校舎を東に建て替えた。中長期整備計画で老朽化対策を進めている。

管理教室棟は平成 27 年から 29 年に設計、工事を行いスケルトン改修（柱だけ残して全面改修）して長寿命化により整備後耐用 30 年となった。トイレも昨年度魅力化事業により整備し洋式化 100％で衛生的になった。特別教室棟は建て替えにより耐用 80 年となった。既存特別教室棟はグラウンド等に活用。建物を密集させてグラウンドを広くする考えで整備を行っている。エレベーターを設置しバリアフリーとなった。屋上には太陽光パネル等の設置ができるようにした。

中長期整備計画という老朽化全体の計画を平成 30 年度から令和元年度にかけて策定し、策定を進めながら新しい特別教室の設計を開始している。計画策定前までは計画を考えながら長寿命化を行って、スケルトン改修を行った効果も中長期整備計画に反映させている。計画策定時に生徒会参加のワークショップを開催して意見を聞きながら設計を進めてきた。

新しい学びとしての最初の建て替えである本校をベースとして今後老朽化対策を続けて更に良いものを目指していく。

＜主な質疑応答＞

Ｑ　木材の使用制限は。

Ａ　法律上十分に使用できない箇所もある。

Ｑ　部活動のグラウンド使用は。

Ａ　野球とサッカーが半分ずつ使用している。

Ｑ　県外から部活動の試合に来ることはあるか。

Ａ　今のところない。希望者があっても宿泊施設がない。

Ｑ　教師で多い教育分野は。

Ａ　ＳＳＨ（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されているため、理数系が多い。

Ｑ　自習室のブース数は。

Ａ　91ある。

Ｑ　旧校舎の解体に要する日数は。

Ａ　あと１年半であるため翌年度までかかる。

7 月 26 日（水）

■　県立伊豆伊東高等学校

＜概要＞

令和５年４月に伊東高校、城ヶ崎分校、伊東商業高校を再編統合し、旧伊東商業高校の敷地に開校した。全日制の 84%が伊東市内、８%が熱海市、残りの８%はその他から通学。定時制はほとんどが伊東市内から通学。

学校の特徴としては、特別進学のキャリア教育、ＣＧデザインなどの独自のアート類型、スポーツ健康類型、地域連携や観光振興等に力を入れたビジネスマネジメントがあり、学びや活動を極めることができる。

定時制は不登校経験者がほとんどだが、出席率が高く、義務教育の学び直しを徹底している。

開校１年目で多くの業務があるが、スクールミッションを実現するためには教職員の行動力、柔軟な対応力が必要と考える。

特別教室棟は 80 平米と広い敷地となっている。伊東商業高校を伊東高校に仮移転し、教師、生徒の協力により通常４年かけて行う設計工事を３年で整備ができた。

＜主な質疑応答＞

Ｑ　車椅子生徒受入れの影響は。

Ａ　車椅子の生徒はエレベーターを使用でき、またバリアフリーとなっているため、本人や他の生徒への環境は良い。

Ｑ　新校舎で特別支援学校伊豆高原分校を併設していて共生教育の拠点になっていると思うが、生徒間の交流の状況は。

Ａ　対面式や文化祭のときに一緒になったが、１学期は交流が少なかったため、２学期は２年生と特別支援のクラスで体を動かすなどの交流を増やし、来

年度は１学期から取り組みたい。
Ｑ　沼津市、三島市まで行かなくても伊東市内で学びを深めるための方策は。
Ａ　多様な生徒のために個に応じた教師の指導が必要となるが、教師の働き方改革とうまく両立させていきたい。
Ｑ　地域開放について考慮していることは。
Ａ　図書室などを広くして自習室を設け、また防犯上１階を開放している。
Ｑ　城ヶ崎分校からの移転など生徒の通学距離の負担は。
Ａ　もともと現在の高校付近出身の生徒が多いため、負担ではない

■　伊豆中央警察署

＜概要＞

旧庁舎は築 47 年が経過し、老朽化、狭隘化に伴い、北に 1.8 キロメートルにある旧大仁市民会館の跡地に移転建て替えを行った。

新庁舎は令和５年６月 30 日に完成し、７月 14 日に引き渡しを受けた。８月 28 日の移転開所と同時に、大正 14 年以降 98 年間慣れ親しんだ大仁警察署の名称を伊豆中央警察署に改称する。

新庁舎は旧庁舎の約３倍。外観は韮山反射炉をイメージしたデザインで、壁面にレンガを用いて落ち着いた色合いで景観に配慮。１階の玄関ホールは上部を吹き抜けとし、内装に県産材ヒノキを着装し明るく開放的な空間になるよう整備。正面を国道側とし、来庁者に配慮。付属棟に東部地域で２箇所目となる射撃場を整備。防災対策は 72 時間対応の非常用発電機を屋上に設置し、井戸の整備、車庫棟の床下を有効活用した災害用トイレを４か所整備。８月下旬までに通信設備を整備する。

＜主な質疑応答＞
Ｑ　留置所の収容人数は。
Ａ　１部屋３人が 10 部屋で 33 人。
Ｑ　女性用の留置所はあるか。
Ａ　全て男性用であり、女性用は富士市にある。
Ｑ　仮眠所の特徴は。
Ａ　部屋が個室で電源コンセントがある。
Ｑ　射撃場の整備による変更点は。
Ａ　今まで射撃場がなく警察学校まで行っていたが、伊豆市及び伊豆の国市の警察官がスケジュールを組んで専用の射撃場で訓練を行うことができることになった。

■　県立富士特別支援学校富士東分校

＜概要＞

県立特別支援学校の施設整備計画に基づき県内で 11 校目の分校として整備され、４月 11 日開校となった。

分校の作業室は富士東高校の生徒が部活動で使用するなど自然に関わって、共に学

び共に生きる共生社会、インクルーシブ教育の実現に向けて歩き始めている。

登校時から東高と分校生徒が同じ通路を通り挨拶するなど日常的な交流があり、トイレなども共用となっているのは県内 11 分校でも唯一の配置である。運動場、体育館、特別教室、図書室なども共用で使用している。

＜主な質疑応答＞

Q　インクルーシブ教育に対する東高生徒の反応は。

A　優しさが増したりリーダーシップが付いたといった影響があった。垣根を越えており学校はこうあるべきと思われ、他の学校も同じようになったらいいと思った。

Q　学校が一緒になることについて、当初の説明は。

A　８つの中学校から分校に上がってきた生徒がいる。準備委員会を設けて教育の枠組みについて昨年度の３学期に生徒を体育館に集めて説明したり、地域住民への周知を行った。ただ、分校側から東高の保護者に向けた発信が足りなかったのではと反省している。

Q　インクルーシブ教育に対する特別支援学校の生徒や保護者の反応は。

A　抵抗は皆無で、むしろ年に数回ではなく高校の部活動などもう少し交流を望む声もあった。